

## 第30回 令和元年度職業能力開発論文コンクールの総評

### 職業能力開発論文コンクール審査委員長

#### 1. はじめに

令和元年度職業能力開発論文コンクールは、「職業能力開発に携わる方等によって執筆された職業能力開発の実践等に係る論文のうち、優秀な論文を選定しその成果をたたえ、広く関係者等へ周知をすることによって職業能力開発関係者の意識の啓発を図り、職業能力開発の推進と向上に資すること」を目的として、厚生労働省、中央職業能力開発協会、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構の共催により行われました。

#### 2. 応募の状況

今回のコンクールでは、52本の応募がありました。その内訳は、都道府県立職業能力開発施設9本、民間企業等3本、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構立施設40本となりました。前回の平成29年度と比較して、都道府県立施設からの応募が5本増え、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構立施設からの応募が22本の減少となりました。

分野別では、電気・電子・情報分野12本、生産・機械分野10本、建築分野7本、障害者関係分野7本、職業能力開発分野14本、その他の専門分野2本と幅広く応募がありました。前回の平成29年度と比較して、職業能力開発分野、その他の専門分野への応募が少なくなる結果となりました。

テーマ別では、「高度で専門的な技能の維持・継承」「新たな技能・技術領域の職業能力開発に必要な専門知識・技能・技術及び指導方法に関する調査・研究」「今後の職業能力開発」の3テーマが、前回の平成29年度と比較すると目立って増えております。

#### 3. 総評

職業能力開発の充実に向けた関係者の積極的な姿勢と日々の着実な御努力がうかがえ、望ましいことと感銘を受けました。

それらの具体的内容をみると、職業能力開発の現状と課題を踏まえたさまざまな興味深い取り組みがありました。すなわち、テクニカルスキルだけでなく、地域連携、チームワークの醸成、人材育成、キャリア形成支援、障害者支援、訓練手法、ヒューマンスキル・コンセプチュアルスキル向上の取り組みなど多岐にわたる職業能力開発に向けた優れた挑戦が、情熱をもって語られていました。

中でも厚生労働大臣賞(特選)を受賞した論文「環境エネルギー技術をアクティブラーニングで学ぶ訓練効果の検証と継続的改善」は、環境エネルギーに係る授業にアクティブラーニングを導入することで、訓練効果があったことを数値で示した優れた論文です。すなわち、学生が主体的に意見を出すことが望

ましい授業においては、本論文の手法を用いることで、訓練効果の向上が期待できるでしょう。本論文では、提案する教育方法を詳細に紹介し、その効果検証について、複数年にわたり効果を測定、検定していることから、説得力があり、さらに他の訓練への展開に関する提案も論述されていました。そのため、多くの審査員が一致して、本論文コンクールの目的に沿った優れた内容となっていると評価しました。

さらに、その他のいくつかの応募作品も、能力開発に関連する報告として面白く興味をもって読むことができました。しかし、その一部には論文としての最低限の体裁（背景、目的、方法、試験、実験、統計、結果、分析、考察、結論、参考文献等）を整えていないために、高い評価をすることが難しくなってしまう、多くの審査員からとても惜しいとのコメントがあったこともご報告せねばなりません。他にも、技術に関する記述のみで能力開発の取組みとの関連についての記述が不足しているもの、文献等からの引用が主で独自の調査・研究に基づく記述がないもの、関連資料の不足しているもの、第三者から見て改善の余地が残る惜しい論文が、一部に見受けられました。

ご関係の皆様には、以上の点に留意され、今回の受賞論文を参考に、さらなる研鑽を積み、職業能力開発のための努力を継続していただけたらありがたく存じます。

今回熱心に御応募いただきました皆様方にお礼を申し上げますとともに、次回以降の職業能力開発論文コンクールにおきましても、さらに多くの方々から優れた論文を応募していただくことを期待し、総評とさせていただきます。